

委員会審査

9月定例会で委員会に付託された議案等について審査を行いました。

総務文教委員会

委員長 矢間 一義

図書館建設について

● 監査請求の結論が出されるまでの一時凍結について

答 建設予定地の検討の際には、東若宮地区にある市有地を含めて候補地の検討を行ったもので、今回監査請求された大洲市の所有になるまでの経緯等についての問題が今後の建設計画に影響を与えるものとは考えておらず、予定どおり、来年10月の完成に向けて準備を進めていく。

● 小学校の統廃合について

問 現時点での統廃合計画案について

答 地域では学校を残してほしいという思いが強いと思うが、現在作成している資料は、ある程度の期間や適正な児童数などを設定したうえで検討する必要がある。



るため、全ての意見を聞いてから計画を立てていくことは困難である。いずれにしても、この統廃合には地域の理解が不可欠であるため、いただいた意見も含め、今後も慎重に検討していきたい。

企画財政委員会

委員長 村上 常雄

● 中小企業振興資金融資条例の一部改正について

説明 この条例は、市内の中小企業の金融難の緩和と育成振興を図ることを目的に制定しているが、今回融資審査委員会の廃止と責任共有制度の導入に伴い、融資に関する手続きから決定までの内容を変更するものである。

問 融資審査委員会が廃止され、責任共有制度が導入されることに伴う今後の市の体制とこれまでの融資状況について

答 融資審査委員会が廃止されても今までどおり申込みを出していただき、市がすべて決めてしまうのではなく、商工会議所や商工会にも合議し、問題がなければ仮決定という形で対応していきたい。

融資の状況は、旧大洲市では平成16年度までは件数が40件から50件、融資金額が1億5,000万円から2億円程度であったが、合併後、平成17年度は件数が

約80件、融資金額が約3億円、平成18年度は件数が51件、融資金額が約2億円となっている。

● 交流促進センター条例の一部改正について

説明 今回の改正は近年の重油価格の高騰に伴い、大洲市交流促進センター鹿野川荘の入浴料金を改定するものである。

問 今回の改定による今後の経営の見通し、近年の鹿野川荘の利用状況、及び今後の取り組みについて。

答 今後の経営の見通しは、平成17年には53円であった重油価格が78円まで上昇し、下がる傾向が見られずさらなる高騰も予想されるが、入浴料については450円以内で柔軟に対応していきたい。

鹿野川荘の利用状況は、利用者総数が平成16年度は約7万1,000人、平成17年度が約6万9,400人、平成18年度が約6万5,530人、この内入浴者数は平成16年度が4万3,980人、平成17年度が4万5,388人、平成18年度が3万9,186人である。

総売上高は平成16年度が



鹿野川荘大浴場(鉱泉)

1億1,900万円、平成17年度が1億2,600万円、平成18年度が1億2,200万円と減少傾向になっている。

経営改善策としてホームページの開設、ピアガーデン、夏場の宿泊者へのサート虫プレセントなどのサービスを行うとともに、地域の食材を活用した料理メニューの考案や接客を中心とした従業員の教育、指導を行っていきたい。